

\*\*\*\*\*

# 天地

## ネットワーク テーブル 468号

発行：天地シニアネットワーク：2018・3・31

\*\*\*\*\*

TENTĪ TODAY			1
会員の広場	<野球は人生の伴侶>		2
連載作品			3
随 想	天のわざ、地のほまれー地球を測れ、宇宙を測れ 43. ローレンツ 力	伊那 闊歩	3
随 筆	「1950年代の僕と街」(六) 「青梅街道の横断」「怖い担任の先生」	臺 一郎	7
旅行記	そうだ京へ行こう・古刹の花物語(41) 哲学の道7・「法然院」	大竹 漢洲	9
講演会	「奈良興福寺文化講座」「新三木会」		11
事務局			12

\*\*\*\*\*

### TENTĪ TODAY

\*\*\*\*\*

一気に初夏の陽気となり戸惑っていますが、人間ばかりではなさそうです。桜が満開ですが、椿、沈丁花、こぶし、モクレンなども花を同時に咲かせています。近くの竹やぶでは、鶯が鳴き始めました。

自然現象の変化、人間が引き起こしたものばかりではないでしょうが、小規模でも核戦争があれば、人間によって自然現象の変化が起きたと自然界から糾弾されることは間違いありません。

米朝の対立の影に他の大国の思惑も見えます。自国中心のトランプ大統領、よもや“戦争で決着を”などと考えてはいないと思いますが、その本心がどこにあるか大いに気になります。

\*\*\*\*\*

大国の中でも国内政治が一番安定しているように見られていた安倍政権でしたが、屈指の不安定政権になってしまったように見えます。

心配は、政権が続くにしても交代するにしても、「財政再建は成長戦略の中で」という放漫財政の後始末をどうするかで、解決能力のありそうどころがどこにも見当たらないことです。官僚組織は、弱体化し頼りにならなくなりました。国民に正面から”痛み“を求める政治も期待できません。

財政破綻で“日本沈没”とならないためには、神頼みしかなさそうです。

\*\*\*\*\*

最近出版された「シリアの秘密図書館」という本を勧められ読み始めたところですが、本の持つ不思議な魔力に共感を覚え、手あたり次第、貪るように本を読んだ若いころを懐かしく思い出します。

ダマスカス郊外の町、政権軍によって包囲され爆撃で破壊つくされた瓦礫の山、その中に残された本を見つける。胸に抱いた本、全身が震える。爆撃の合間に壊された家々を掘り起こして本を集めると、色々な分野の本が、1万5千冊も集まったとのこと。地下に図書館を作り、爆撃の中でも図書館に多数の人が集まり、本を読む。

最近、電車の中で本や新聞を読む人をあまり見かけなくなりましたが、活字好きな日本人もマンガ文化に移行しているようで、活字を読む愉しさを忘れてしまうのでしょうか・・・。

\*\*\*\*\*

## 会員の広場

\*\*\*\*\*

### 野球は、人生の伴侶

選抜高校野球につづきプロ野球の公式戦が始まりました。4月になると大学野球も始まる。戦後、野球とともに育ってきた世代には、まさに春到来といった感じと思われる。自分でもおかしいくらい、毎年3月に発行される「プロ野球年鑑」を買くと、夢中で選手紹介を読む。最近、字が細かく読むのに苦労するので、サッと目を通す程度だが、新人選手の経歴を頭に入れ、今年の活躍を予想するのは、大変楽しい。

野球との出会いは、小学生時代。近所の寺の本堂の前のわずかなスペースで、3-4人の仲間と、棒でゴムまりを打って遊んだのは小学校3年生のころ。4年生になると、スポンジ球、古バット、布のグローブなどが登場し、放課後毎日のように三角ベースの野球をする。

5年生の秋（昭和24年）、オドール監督率いる米国プロ野球3Aのサンフランシスコジャイアンツが来日し、日米対抗戦が始まる。その折に特別に東京6大学選抜軍との試合を組んで、首都圏の小中学生を後樂園球場に招待してくれた。希望者に入って先生に引率され、後樂園へ。試合結果は定かでないが、投手が法政の関根潤三だったことをハッキリと覚えている。10年ほど前にその試合のプログラムを同級生が持っているのを知り、手元がないのが誠に惜しまれました。

野球観戦は、周囲の大人に野球好きが多かったので、プロ野球、6大学、都市対抗など早くからよく見に行く。中でもプロ野球は、昭和23年、小学校4年生の時、当時、当時あったプロ球団・大映スターズの主力打者だった加藤選手（名前は失念）が近所に住んでいて、土曜日に後樂園で試合がある時に度々連れて行ってくれた。当時、吉祥寺から水道橋まで、省線の子供片道料金が80銭だったと記憶。

加藤さんは、球場に着くと内野席の入り口で係員に声をかけてくれ、一人でそのまま入場し空いている席で試合を観戦する。終わるとまた入場口に寄って連れて帰ってくれた。試合内容はほとんど覚えていないが、当時の大映には、坪内、西沢など後に中日ドラゴンズで活躍する選手たちがいた。

プロ野球が、2リーグに分裂したのは昭和26年、その前の1リーグ時代、後樂園の年間パスを伯父が持っていて時々連れて行ってもらう。巨人一阪神戦が多かったせいか、当時のスタメンはこんなだったように思う。

巨人) 投手・藤本、捕手・内堀、一塁・川上、二塁。千葉、三塁・山川、遊撃・白石、左翼・中島、中堅・青田、右翼・呉(?)

阪神) 投手・若林、捕手、土井垣、一塁・御園生、二塁・本堂、三塁・藤村、遊撃・皆川、左翼・金田、中堅・呉、右翼・別当

怪しげなところもありますが、こんなものでした。

大映スターズが消滅したあと、加藤さんは中日ドラゴンズに移籍したので、それ以来中日ファンとなり、プロ野球を追いかけていましたが。昭和49年に広島へ転勤してからは、広島ファンに変わりました。

これまで70年近く、プロ野球を見てきましたが、最も印象に残った選手は、中日ドラゴンズの杉下投手。連投連投の怪腕は、壮絶でした。同じように投げた選手はいましたが、杉下選手のように長く続けた選手はほとんどいない。国鉄スワローズの金田投手ぐらいでしょうか

さて、中日の前身、金鯱軍(?) 時代

投手・清水、捕手・藤原、一塁・小鶴、二塁・金山、三塁・三村、遊撃・杉浦、などについて、大映から、坪内、西沢、加藤と移籍したように思うのですが・・

杉下選手は、二リーグ分裂後に、大学の先輩天知監督のいる中日に入団してきたように思います。

いい加減な思い出話で申し訳なく思っています。巷には、もっと詳しい方が多数いるはず、教えを請いたいと思っています。 (津田孚人)

\*\*\*\*\*

## 連載作品

\*\*\*\*\*

天のわざ、地のほまれ  
—地球を測れ、宇宙をはかれ—

伊那 闊歩

### 43. ローレンツ力

そもそも電場 ( $\vec{E}$ [N/C]) や磁場 ( $\vec{H}$ [N/Wb])、電束密度 ( $\vec{D}$ [C/m<sup>2</sup>]) や磁束密度 ( $\vec{B}$ [N/A・m]) など電磁気の基本量は、それぞれ[単位]は異なるが力 ( $\vec{F}$ [N]) と同じくベクトル量なので、各々その大きさと向き(文字の上に→をつける。ベクトルに矢印→をつけず、太字だけで表すこともある)を持っている。それらが電磁気の法則にしたがって固有の向きを定められて動く。次にあげる例は、こうして発見されたもののうち、電流が磁場から力を受けるというものである。

fig.1 の右の図は、真空中(テレビのブラウン管の中のような空間)の電子線の流れを想定したものである。電子は(電子銃から打ち出されて)右から左に流れているが(オレンジ色)、これを電流と見れば逆向き(黄色)に流れている。この電子線に磁石(赤はN極、青はS極)を近づけてみる。磁力線の向きはNからSへ紫色で示してある。このとき運動している電子は磁力によって力を受ける。そして、電子線は思いもかけない方向へ曲がるのだ。この

場合、電子は上方に力を受け（緑色）、電子線は上方に曲げられるのである。これを左図によって説明すれば電流は  $i$  方向 ( $x$  方向)、磁力線の向きは  $j$  方向 ( $y$  方向)、受ける力の向きは  $k$  方向 ( $z$  方向) になるということなのである。

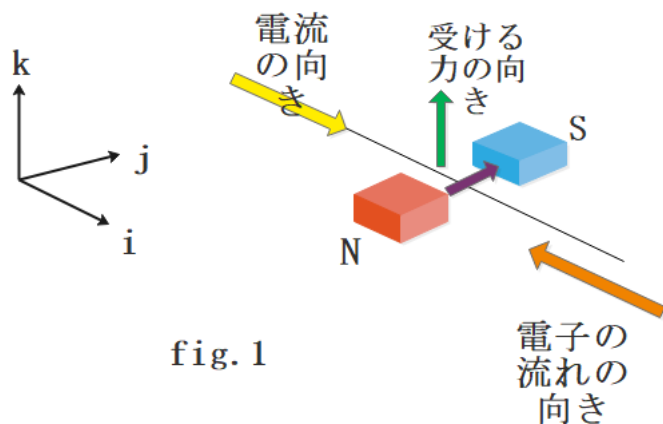


fig. 1

この現象は、フレミングの左手の法則としてよく知られている。つまり、左手中指を電流の向き ( $i$ ) に、人差し指を磁場の向き ( $j$ ) にとれば、親指の向き ( $k$ ) が磁場から受ける力の向きになるというのである。人のふつうの感覚に従えば、電子線が磁場の中を通過するときには、N か S どちらかに引き寄せられて曲がると予想されるのではないか。ところが、電子線はあたかも N, S を避けて逃れるように上方に向くのだ。

このような電磁気の一般的現象に慣れて数式化するために、ここでベクトルに対する新しい演算—ベクトルの掛け算  $\times$ —を導入するのが便利である。慣れていなければ多少複雑に見えるが、この演算に馴染むのが一番の早道なのだ。

fig. 1 の左側の図で、 $i, j, k$  はそれぞれ  $x, y, z$  のプラス方向に向いている単位ベクトルである。そこでこれらのベクトル積  $\times$  を次のように定義する：

単位ベクトル  $i, j, k$  に対するベクトル積の定義：  
 $i \times j = -j \times i = k, j \times k = -k \times j = i, k \times i = -i \times k = j,$   
 $i \times i = j \times j = k \times k = 0$

ベクトル積については、通常の交換法則はなりたたない、演算の順序を逆にするとマイナスがつく。すると、同じベクトル同士の積は 0 になるのだ。

この演算に馴染むために、簡単な例によって考えてみよう。2次元 ( $x, y$ ) 平面上に 2 点 R, S をとり、それらの座標がそれぞれ  $(3, 1), (2, 3)$  であったとする。

2次元ベクトルとして表せば (fig. 2)：

$$R = 3i + j, \quad S = 2i + 3j$$

となる。そこで、これらのベクトル積はルールにしたがって

$$\begin{aligned}
 R \times S &= (3i + j) \times (2i + 3j) \\
 &= 6i \times i + 3j \times j + 9i \times j + 2j \times i \\
 &= 9k - 2k = 7k
 \end{aligned}$$

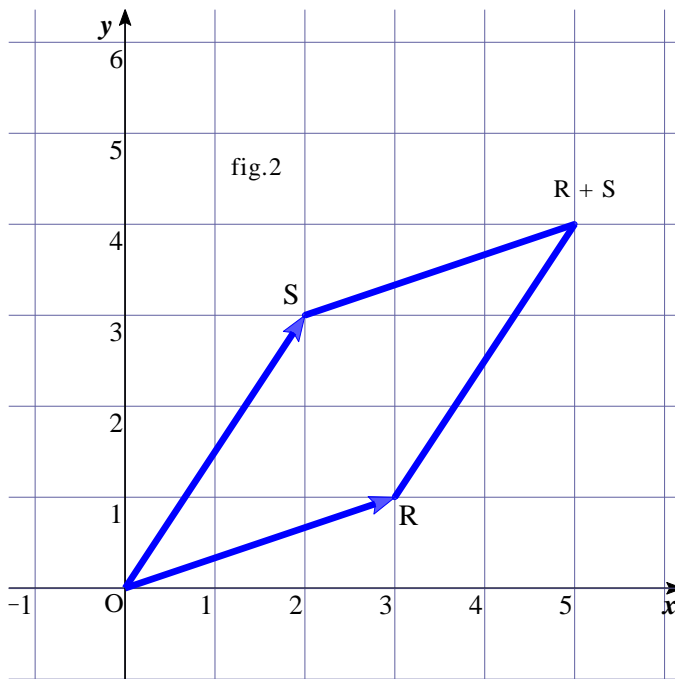
一方、ベクトル  $R$  と  $S$  を 2 辺とする平行四辺形 (fig.2) の面積を計算してみると (図からすぐに数えられるように) 7 であることがわかる。これはベクトル積の計算結果に一致する。つまり、ベクトル積の計算によって簡単に平行四辺形の面積を計算することができる。ただし、ベクトル  $R$ 、 $S$  の向きに直交する向き (この場合は  $k$ ) が (自動的に計算されて) ついてくるのだ。

もう少しこの例について調べてみよう。ベクトル  $R$ 、 $S$  の大きさは ピタゴラスの定理により計算できて、それぞれ  $\sqrt{10}$ 、 $\sqrt{13}$  であることがわかる。

$\angle SOR = \theta$  とすればこの平行四辺形の面積は

$$(R \text{ の大きさ})(S \text{ の大きさ}) \sin \theta = \sqrt{10}\sqrt{13} \sin \theta$$

と書けるはずである。この値が 7 であるから  $\sin \theta = 7/\sqrt{130} = 0.614$ 。三角関数表によれば  $\angle SOR = 38^\circ$  となることがわかる。



ベクトル積は、(ベクトル)  $\times$  (ベクトル) = (ベクトル) という演算であったが、ここでもうひとつ (ベクトル)  $\cdot$  (ベクトル) = (スカラー) = (ただの数) と

いう演算 (スカラー積) もあって、 $i, j, k$  について次のように定義される：

単位ベクトル  $i, j, k$  に対するスカラー積の定義：

$$i \cdot i = j \cdot j = k \cdot k = 1, \quad i \cdot j = j \cdot k = k \cdot i = 0$$

たがい直交するベクトル同士のスカラー積は0となる。この演算によって

$$R \cdot S = (3i + j) \cdot (2i + 3j) = 6i \cdot i + 3j \cdot j = 9$$

一方、つぎのような量を計算してみる：

$$(R \text{ の大きさ})(S \text{ の大きさ}) \cos \theta = \sqrt{10}\sqrt{13} \cos \theta = \sqrt{10}\sqrt{13} \frac{9}{\sqrt{130}} = 9$$

ここで、 $\sin \theta = 7/\sqrt{130}$  であったから  $\cos \theta = 9/\sqrt{130}$  となることを使った。ベクトルのスカラー積・とは、

$$R \cdot S = (R \text{ の大きさ})(S \text{ の大きさ}) \cos \theta$$

で定義される量のことである(\*1)。

以上の演算法を用いて、fig.1 によって与えられている現象を数式化してみよう。磁束密度  $\vec{B}$  の磁場(j 方向)中を電気量  $q$  を持つ荷電粒子が速度  $\vec{v}$  で  $i$  方向に運動している。この時、この荷電粒子が磁場から受ける力  $\vec{F}$  は

$$\vec{F} = q \vec{v} \times \vec{B}$$

で与えられる。ここで、 $\times$  はベクトル積をあらわす。受ける力  $\vec{F}$  の方向は  $k$  方向である(\*2)。もし速度ベクトル  $\vec{v}$  と磁束密度ベクトル  $\vec{B}$  が直交していれば、この力の大きさは  $qvB$  であるが ( $v$ 、 $B$  はそれぞれ速度、磁束密度の向きを無視した大きさだけを表すとす)、そうでない場合は速度ベクトルと磁束密度ベクトルの間の角を  $\theta$  とすれば、受ける力の大きさは  $qvB \sin \theta$  となる。力の向きは  $\vec{v}$  にも  $\vec{B}$  にも直交する向きをとる。この力を、発見者ヘンドリック・ローレンツ (1853-1928) に因んでローレンツ力と呼んでいる。一般には、荷電粒子に電場  $\vec{E}$  も加わるのでそれも一緒にしてローレンツ力は習慣的に

$$\vec{F} = q \vec{E} + q \vec{v} \times \vec{B}$$

と書かれる(\*3)。ローレンツ力の公式は、モーター (電動機) や素粒子加速器 (サイクロトロン) の設計などの際に基本的な役割を果たす重要な公式なのである。

(\*1) 3次元空間内に2点  $P, Q$  を定めて考える。その座標がそれぞれ  $(3, 4, 1), (2, 3, -4)$  であったとする。点  $P, Q$  を位置(座標)ベクトルとして表せば

$$P = \vec{P} = 3i + 4j + k, \quad Q = \vec{Q} = 2i + 3j - 4k$$

と書けるが、これらのベクトル積  $P \times Q$  を計算してみよう。

$$P \times Q = (3i + 4j + k) \times (2i + 3j - 4k) = 6i \times i + 12j \times j - 4k \times k$$

$$+ 9i \times j + 8j \times i - 16j \times k + 3k \times j - 12i \times k + 2k \times i$$

$$= -19i + 14j + k$$

こうして得られたベクトル積であるが、これは一体何であるか、もとのベクトルとどういう関係にあるか？

$$P \cdot (P \times Q) = (3i + 4j + k) \cdot (-19i + 14j + k) = -57 + 56 + 1 = 0$$

$$Q \cdot (P \times Q) = (2i + 3j - 4k) \cdot (-19i + 14j + k) = -38 + 42 - 4 = 0$$

であることから、ベクトル  $P \times Q$  はもともとのベクトル  $P, Q$  に直交していることがわかる。したがって  $P \times Q$  はベクトル  $P, Q$  がつくる平行四辺形面に垂直なベクトルになっている。

(\*2) ローレンツ力： $q \vec{E} + q \vec{v} \times \vec{B}$  の単位が力の単位になっているか調べ

てみよう。電磁気の国際単位系（理科年表を参照）によれば、

$[q] = As (= \text{アンペア} \times \text{秒})$ ,  $[v] = ms^{-1} (= \text{メートル} \div \text{秒})$ ,  $[B] = (kg)s^{-2}A^{-1} (= \text{キログラム} \div \text{秒}^2 \div \text{アンペア})$  なので、これらをかけあわせれば  $[qvB] = (kg)ms^{-2} = N (= \text{ニュートン})$ 。ここで記号  $[q]$  は物理量  $q$  の単位をあらわす。また  $[qE] = As(kg)m s^{-3}A^{-1} = (kg)ms^{-2} = N$  となるからローレンツ力の2項ともその単位はニュートン(N)になっていることがたしかめられた。

(\*3) ヘンドリック・ローレンツはオランダの物理学者。同じオランダの物理学者ピーター・ゼーマンとともにゼーマン効果の研究によって1902年ノーベル物理学賞を授与された。ローレンツ力の表式は電磁気の基本方程式のひとつであるが、たいへん美しい公式であると思う。後の回において述べることになるが、特殊相対性原理における時間空間の変換法則—ローレンツ変換(美しく神秘的に見える公式)によってもその名がよく知られている。

\*\*\*\*\*

## 随筆風「1950年代の僕と街」(六) 臺 一郎

### 青梅街道の横断

昭和年31年の8月、僕は福岡県の荻田町から東京杉並区の新沼3丁目に引っ越した。まさに田舎から都会への引越した。家は荻窪駅からバスに乗り、杉並第五小学校前というバス停で降りて、10分ほど歩いた住宅街の一戸建てだった。家から歩いて6~7分の沓掛小学校に転校した。

そろそろ高度経済成長が始まりつつある時期で、東京郊外の住宅地としてはまだ農地や雑木林が多少残っていた杉並区は、年々人口が増加し、小学校も新設されていた。僕が転校した沓掛小学校もそんな新設校の一つ。僕が転校する4年ほど前に開校した。

正確には覚えていないが、1クラスの生徒数は確か50数名位で、男子はその半分の26・7人だった。九州の小学校とはまるで違って、クラスの男子で頭を坊主刈りにしているのはほんの数人。残りは坊っちゃん刈りかスポーツ刈りだった。女子はもちろん、男子もほとんどが私服で学生服の子は一人か二人だ。男子は大半が自分専用の小型自転車を持っていて、昼食は学校給食だった。

杉並区は世田谷区などとともに、父親が大企業のサラリーマンや公務員や

学校の教師、医者などの世帯が多い。言ってみればインテリで経済的にも比較的ゆとりのある世帯が多かった。九州の苅田町とは住民の顔ぶれも雰囲気も随分違っていた。

引っ越してから2ヶ月ほど経ったある日、僕は仲良くなった友達数人で善福寺公園までサイクリングをした。

あと少しで善福寺公園というところで青梅街道にぶつかった。横断しないと善福寺公園には行けない。善福寺公園近くの青梅街道は当時から既に4車線で、車の交通量もかなり多かった。九州の田舎から越して間もない僕にとって、4車線道路の横断など全くしたことがなかった。おまけに当時の青梅街道は、今ほど信号がこまめに設置されていない。横断するには通行する車の流れの切れ目を狙って、さっと渡らなければならない。

友人達は都会っ子で慣れている。右を見て左を見て、車の流れが途切れたなど判断するとさっと渡った。僕も真似しようとした。右を見て、左を見た。左の車はまだ遠いが右は割りと近い。『よしあの右の車が行ったら渡ろう』と決めた。右の車が通り過ぎたので、念のために左を見た。まだ来ないと思っていたのに、もうすぐそばまで来ている。『無理だ、渡れない』そう判断してやり過ぎた。チラッと右を見るとこちらにも新たな車が近づいている。その車が通り過ぎるのを待っていると、左側も遠くに車が見えてきた。なかなか渡れず、段々あせってきた。街道の向こう側からは友達が『早く来いよ』と呼ぶ。結局左右の車はかなり近づいたタイミングで僕は強引に横断した。自転車に乗った子供が急に青梅街道を横断し始めたので、近づいていた左右の車は急ブレーキを踏み、激しくクラクションを鳴らした。僕は怖さと恥ずかしさでドキドキしながら友達の後を追って逃げるように善福寺公園へと走り去った。

青梅街道の横断は当然帰路にもあった。けれども往路の学習効果で、友人達が横断するときと一緒にすばやく渡ったので、帰りは怖い思いをしないですんだ。

この青梅街道の横断体験は子供心にしばらくトラウマとなった。そして60年近くを経た今でも忘れられない記憶となった。

## 怖い担任の先生

杳掛小学校時代には青梅街道の横断以外にも、二つ忘れられない思い出というか記憶がある。

一つは担任の先生の厳しい体罰。今ならPTAで大きな問題になりかねない。ある日僕は図工の授業に鋏だか糊だか必要な何かを持っていくのを忘れた。先生は罰として、僕ともう一人の生徒を教室の外の廊下に立たせた。しかも生徒用の椅子を、腕を前に伸ばした状態で持たせたままだ。先生が良しというまで、その姿勢を続けよと言う。椅子の重みに耐えかねて腕は下がってくる。先生は時々廊下に出てきて、竹の棒でさがっている僕らの腕をピッと叩き、『腕を上げて』と命じる。何とか腕を上げようとするが、5・6分も経つと、頭と上半身を後ろに反らし、額から汗をたらし、歯を食いしばっても腕は全く上がらなくなる。しばらくして、先生はやっと椅子を廊下に置いて良いと言った。

よく忘れ物をする子供だった僕は、別の日にも何かを忘れて、同じく忘れ



物をした2人の生徒達と共に、罰として図書館の床で<腕立て>の姿勢をさせられた。『しばらくその姿勢でいろ』と言われた。7～8分位はその姿勢でいたが、10分を過ぎると腰やお腹が下がってきた。更に時間が経つと伸ばしていた腕も耐えられなくなって曲がってきて、やがて全身が床に這い蹲る状態になった。先生は細い竹の棒で腰をトントンとたたき『ほら、腕を伸ばして腰を上げて』という。こんな感じで20分近くもやられると、自分の汗で床に水溜りが出来る。30分近く経って、先生はやっと僕達3人を席に座らせてくれた。

その先生は陰険な人ではなかった。また、理由も確かめもせずに理不尽に体罰を与えるような先生でもなかったが、怖い先生として知られていた。僕はその先生を恨むようなことは全くなかったが、やらされたいくつかの体罰は生涯忘れられない記憶となった。

沓掛小学校に関して、もう一つ今でも忘れられないのは、毎日下校時に校庭のスピーカーから流れたトロイメライの曲だ。土曜日を含めて平日は毎日欠かさず流れたから、そのメロディは今でもはっきり覚えている。逆にトロイメライの曲を聴くと、夕陽に染まった沓掛小学校のグラウンドや校舎、『じゃあね』と言いながら自転車に乗って学校の門を出ていく子供達、学校のそばの住宅地をラッパを吹きながら自転車で流す豆腐屋の姿などの光景が目には浮かぶ。

トロイメライは小学校の下校時に校庭に流れた曲としては、別れの曲について多くの学校が使ったらしい。

沓掛小学校に電話して聞いてみたら、下校時の音楽はもうやめたと告げられた。でももう一度、夕陽に染まる小学校の校庭で目を閉じて聴いてみたかった。そのメロディが呼び水となって、古い大脳皮質の奥底に閉じ込められている懐かしい色々な思い出や記憶がブワーッと溢れ出てくるような期待がある。

\*\*\*\*\*

## <そうだ京へ行こう・古刹の花物語> (41)

大竹漢洲

### 哲学の道 法然院

更に「哲学の道」を銀閣寺に行く間に「法然院」があります。「哲学の道」を右に堀割を越えて、なだらかな樹木の繁った道を上るに従うと、境内に導かれます。この道は手つかずの自然が残り好きです。道から左に折れると、正面萱葺の屋根と白木の柱で構成されたカタチの整った山門の姿が小さく現れます。参道の両側は背丈のある樹木が茂り、陰影の中に山門が浮かび、山門口が明るく光に満ちています。変わらない静寂の中に、何処か凜とした気品がある山門です。

山門の前に立つと、門の柱と上部横木で仕切られた額縁を見ているように、境内風景が絵となって浮かんできます。冬には雪に陰る本堂が、春には花吹雪で霞む本堂が、秋は紅葉で映える本堂が、四季の移ろいで様々な絵を見せてくれる山門口です。法然院の境内には、紅葉樹の種類が多く、秋の境

内の美しさは、決して極楽浄土に比しても、勝とも劣らないでしょう。

人間は身勝手なものです。写真好きな人間は特にです。境内に人影の無いことを念じます。時には奇跡が起こるものです。秋の紅葉の時期でも、観光客の姿が途切れて、人影の無い写真を撮ることもできます。是非とも努力の賜物をご覧ください。この“一瞬の喜び”を得んがために、法然院を訪れています。堂内の拝観は時間が限定されていて出来ません。門を入ると、左右に砂壇があります。高さ 20cm 程に盛った長方形の砂の上に、抽象的な形が作られています。流水、小川、花菖蒲、などの紋様が描かれています。砂壇の間を通ることは、砂が水を表し心身を清めて、浄域に入ることを意味しています。間違っても、若い僧侶の芸術作品と思わないで下さい。

余談です。寺院には方丈の間があり、必ず前庭があります。最初は白砂を敷き詰めた状態で、模様も描かれて無く、石もありませんでした。やはり方丈の間で、ご本尊に参拝するための心身の清めの意味合いが在ったのかも知れません。他の寺院で見られる砂壇も何処でも抽象的で発想、がユニークです。図案のあるものは、何百年も不変であろうし、あるものは時と共に変化してきたのだろうか?と。この寺が「法然院」と呼ばれるからには、ここで法然上人が「念仏専修」を行ったに違いないと勝手に思い込んでいました。しかし由来を調べてみると間違いであることを知りました。先程に拝観してきた「住蓮山安楽寺」と深い関係のある寺院が「法然院」です。

法然上人の命で再興された「安楽寺」も、再び荒廃してしまいます。江戸時代初期、延宝 8 年(1680 年)に知恩院第三十八世・萬無和尚が、法然上人のゆかりの地に念仏道場を建立することを発願して、現在の「法然院」のある地に基礎が作られ、再建されたことが始まりでした。

余談と言ってはバチが当たりかも知れません。法然上人の教えに関心を持ちました。法然院のパンフレットに解説されていました。

『われらが往生「極楽浄土に生まれること」は、ゆめゆめわれが身のよしあしきには、より候うまじ「自身の善悪には関係がない」。ひとえに仏のお力に候うべきなり。

罪の軽重を言わず「自身の罪の軽重に関心無く」、ただ念仏だにも「念仏さえ」申せば、往生するなり、別のさまなし。往生は一定なりと思えば一定なり、不定と思えば不定なり。「極楽往生は可能と思えば可能なり、不可能と思えば不可能なり」

気分が軽くなりました。身を置いた周囲には、考え一つで、極楽浄土があることを知らされました。

合掌

\*

\*\*\*\*\*

## 文化講座・講演会

\*\*\*\*\*

### 奈良興福寺文化講座 2018年4月19日(木曜日)

午後5時半～6時半：第一講「興福寺古儀一薪御能」

興福寺 執事長 多川良俊

午後6時40分～7時・・・心を静める

午後7時～8時：第二講

連続講話・「奈良・祈り・心」 興福寺 貫首 多川俊映

会場：(学)文化学園 文化服装学院内

受講料：500円 先着200名

(JR新宿駅南口、小田急線、京王線各新宿駅から8分、都営新宿線新宿駅3分)

\*\*\*\*\*

### 第93回 新三木会講演会のご案内

1、日時・会場 2018年4月19日(木)13:00-15:00 如水会館

2『日本の未来を考えよう』 出口治明氏 立命館太平洋大学学長

3. 申込・会費 E/Mail: [shinsanmokukai@gmail.com](mailto:shinsanmokukai@gmail.com)

TEL :047-464-4063

フルネーム：一般・天地シニアネットワーク

会費：2000円 婦人1000円 学生無料

茶話会：15:15-14:20 千円(自由参加)

4. ホームページ

<http://jfn.josuikai.net/circle/shinsanmokukai/>

5. 予告

5月17日(木)第94回 春名幹男氏 元共同通信ワシントン支局長  
『どうなるか、トランプ政権と朝鮮半島情勢』

6月21日(木)第95回 沖村憲樹氏 元科学技術振興機構 理事長  
『日中の科学技術開発について』

月19日(木) 第96回 松尾文男氏 ジャーナリスト  
元共同通信社常務取締役  
『アメリカと中国の長い歴史』

\*\*\*\*\*

## 事務局

\*\*\*\*\*

<事務所移転しました。新住所は下記にあります。>

<投稿歓迎>< 図書 の 推薦 依頼 >

<プリント版・郵送>

メール版(無料)を月に一回編集してプリント版を発行郵送しています。お申込みくだされば送ります。その際には、実費として1月350円(4200円/年)をいただいておりますのでご了承ください。

<振込先> 振込先：三井住友銀行「神田支店」 (普通) 7871532  
(口座名) テンチシニアネットワーク

---

天地シニアネットワーク・テーブル・468号

発行：2018年3月31日

天地シニアネットワーク事務局 (津田 孚人)

新住所：〒116-0001 荒川区町屋3-2-1

ライオンズプラザ町屋703

メールアドレス：[tentisenior06@gmail.com](mailto:tentisenior06@gmail.com)

電話・FAX・03-3819-7651

携帯電話(津田)：090-2534-1316